

幕末維新書留

明治三年三至十月

服部文庫
イ 17
2189
65





117 時  
2189  
65

01021



小野校書官法既校名

言以使送送人一人相年七言想何了於  
縁之々所々事古々々教言書何何何  
行病走了病々病々々何々何々々々  
行也書物々々書物何々何々何何何  
々々々何何何々々  
抑々々々々々々地方官々々一々々々々々々々々々  
事務之次々々々法爲々々事政々々何何何  
縣政書一法々々法 仰出法爲々々々々々々  
命々法書政書々々々々々々々々々々々々々々々々

服部文庫  
117













小野重教檢校右衛門尉

宣教係其地方官言一日忽生事

既此年法高在官事職上布御府番縣政

政之旨教仰出諸番公事各事年命上

上之政教之旨色不之違之職事之關典之

之人材之旨之旨之旨之旨之旨之旨之旨

有之夫 皇國

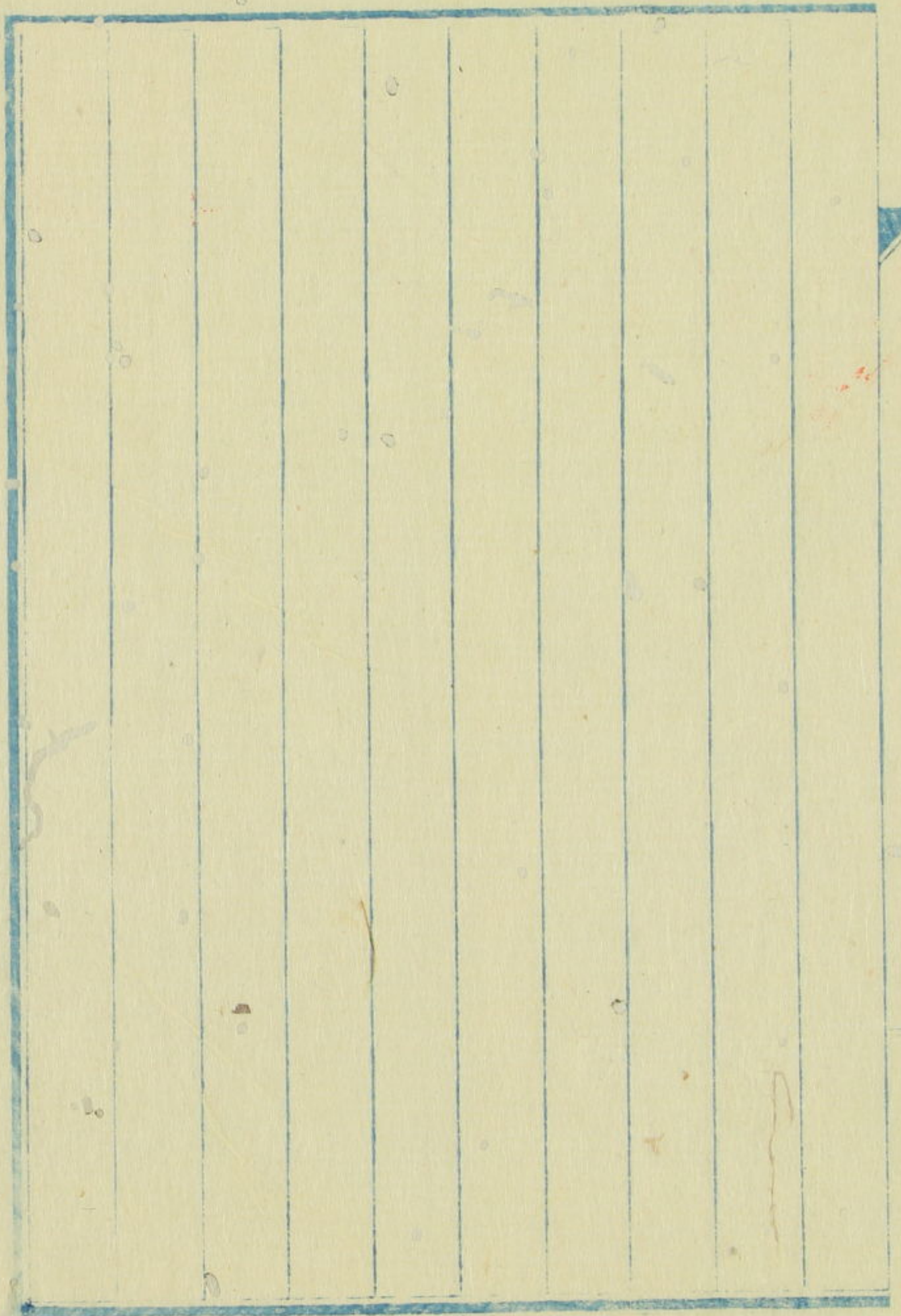
天祖基多開年 天孫統之垂統以之自之

明之教出宗一奉政之政之政之政之政之

有之也時時時時時時時時時時時時時

信之信之信之信之信之信之信之信之

服部文 117





旅古也入さし稱するより國毎國分守すまじき所  
とせしむるより天下一人として併法に歸せしむる事  
至るべきも又我政治の助と爲し強ひしむる思夫思婦  
と教へし由は子孫の皆我教化之輔と爲し一死  
方今文明開化の時なり王政復古の典なり 皇國  
固より教に死すべし不付と云規撫と云は強ひたるの  
主上自ら政教と云は強ひしむる官に者其他諸局府縣  
縣ホ各各課しと云其政教ヲ助ケし由は子孫の皆我  
縣に我教化の所也也なりと云事なる由は政事宣  
教則其事之誠也なりと云強ひしむる官に者其他諸局府  
縣に多事瑞を事する人をして任する所は其大少

未事以下之職員之等事ヲ助て其政教と云は強ひし  
し能く宣教之誠也なりと云者所謂神字者流神字は  
之類或は偽家者流と云一境界を以て一區畫する  
小又強ひしむる所は強ひしむる也之宣教は強ひし  
別と奇説強ひしむる也士農工商之商者其誠と勤  
め五倫と云はしむる事と云思夫思婦一教也  
と云事此府を以て必中小学校有りし一其教  
師をして學科正教人、教派を以て選りて  
漢字を以て洋字を以て頑固之僻を以て強ひしむる者  
當有る三五千の同宣教之誠也説論ししは其  
互に其誠を任す振ふと云神代に在り皇國神古也











薩人校山正を以封事



方今一朝之朝四方君目、時府尚縣と

朝廷の古鑑、依違一各新、徳政と布、一不立計

んや第幕、之悪弊、時、新政、遷り、昭然と、若、却

是と、た、た、ま、し、細、其、目、の、舉、て、云、二、弟、一、輔、相、と、大、任

と、路、大、後、廉、臨、者、上、朝廷と、暗、誘、一、下、飢、餓、と

不、察、を、り、第、二、大、小、官、及、と、も、亦、大、不、忠、節、と、張、内、

名、利、と、事、と、あ、る、不、少、才、之、朝、令、々、替、万、民、狐、疑、と

抱、き、方、向、迷、ふ、早、免、常、令、附、會、心、と、若、者、矣、不、用

加、り、り、申、出、さ、し、申、人、鳥、魚、混、濁、と、情、一、且、其、不、一、之、就、全

服部文 11

117. 1303











のりといふこと一々の急務に先凋死と云ふ政  
令と一信と天下に示し一民とあはれりしもの  
之れ若くは慮外と愛とあはれ一々の解の深高  
は遠なりや

大正五年七月廿七日

鹿見島藩士族

横山正太郎

鹿見島藩士族横山正太郎紙連白書二通封

中言行相扶に既在御座り事々当院門前  
相係りたゞまきしを以て者より是れを  
市人儀々津藩邸裏門のりし一席候し  
は御座り依りし御座り候と也

庚午  
七月廿七日

集議院



彈正基表狀

本月二十七日、若以名山藩士横山正之、仰政体と禪三  
し、國恩ヲ報セントスル誠心ヲ時事十策ヲ建、議ヲ集  
議院ニ獻シ、死ヲ以テ採用スルコトヲ願ヒ、終其藩邸  
外ニ於テ腹ヲ屠ル幸ニシテ、氣絶ス、日藩之士之ヲ  
保護療養スルニ依テ、其情實ヲ聞究シ、且建言スル  
處ノ書既ニ政府ニ達スルヲ告ルヲ得タリ、欣然、瞑目以  
鳴呼斯ノ如キ者、愛ニ憫ムヘク哀ムヘク、事ニシテ天下  
常ニ無クシテ稀ニ有ル者ナリ、夫レ人ニ賢愚アリ、才ニ  
大小アリ、故ニ其縁スル處、當テ不當、姑ク措テ論ヤス、其

心ヲ推シ、其情ヲ尋ヒ、是レ國家ヲ憂フルノ深キ者、悲レハ  
為ス、然レ此レ也、ナリ、今ヤ、  
不登明上ニ有リ、賢相之ヲ輔ク  
待詔ノ苟ヲ設ケ、建言ノ門ヲ開キ、肝腎治ス、求、秋ニ  
當リ、斯ノ如キ士有テ、其心ヲ愛セズ、其情ヲ憫ス、空シク狂  
名ヲ取シムル、  
聖代民ヲ愛スルノ意ニ非ルナリ、冀ク其言  
採キ、心之ヲ採リ、採ルヘカナルニシテ、怨シ、其誠心ヲ賞シ  
其處為ラ、旌シ、天下ヲシテ、獎勵自奮セシメ、玉ク生者  
益、其力ヲ展ヘ、死者、其志ヲ餘、榮アラシトス、是レ臣等  
ノ黙ス、能ハスシテ、尊嚴、嚴冒、凌スル所、以ナリ、今、其、臣等、檢  
察スル、處ヲ具記シ、併テ、別ニ奏ス、伏テ、願ク、臣等奏



處之凶事哀悼、曲ヲ行ヒ義烈ヲ表シ玉ク、特ニ臣等  
ノミズ非ズ天下ト萬事、大幸ナリ謹奏

檢察書

鹿見島藩 伊知地權左衛門事

同 公用人 田中 清三進

右兩人申口

屠腹人

同藩士族

横山正太郎

右正太郎事實、同藩木林喜右衛門三男、横山家へ  
養子ニ奉リ、當時為學問東京本所田口文藏方へ入塾  
仕申候、今廿七日曉藩邸通用門へ参リ、袋ヲ指差シ感

在朋友へ、遺書ヲ不得止  
及諫死候故別ニ子細申シ由

徹兵本營へ届矣、修様門番ノ者相

相託シ直ニ引取候間モ、邸前ニ於テ屠腹致候ヲ  
見當報告有之早連邸内へ引取テ細相尋候所集  
議院御開院已末建白之者其數ヲ不知候、凡其情  
不貫徹御採用無之事多シ、左スルハ草莽ノ卑賤且不  
肖ノ愚論ヲ以テ建白仕候、凡御採用之義無覺末候トモ  
黙止スルモ不本意死ヲ以テ諫ルニ若スト一因ニ思ヒ込十箇  
條ノ建白ヲ認メ集議院ノ門前へ行ニ扶ニ圍キ藩邸前  
迄立退、右次等ニ及候由附テ同藩ノ者ニ於テハ存命ノ内  
御採用ノ有無為知度情態ヲ集議院へ為伺人指出



候所同院判官右建白書持卷 朝途中二行逢早  
速罷歸其段申聞候所安心、躰ヲ閉目其終致  
絶命候

死躰點檢之次第

疵所左脇腹疵口三寸深、一寸五分位水落ノ所、  
所疵口一寸位宛ノ浅疵咽喉突疵二ヶ所、概圍掛  
深疵外ニ疵所、白ムキ筒袖襦半着用ニ蒲團  
ノ上ニ仰キ居候

但屠腹ノ節ハ青地木綿致付ノ單衣黒吳鉛ノ袴着用  
ニ所甚汚染候ニ付為着替候由

伊知地権大参事別段申候

今般ノ事件ニ關係致候儀ニ無之候ハ臣御會申上  
度右平太郎儀幼年ノ比ヨリ父母ニ仕仕ヘテ順ニ敢テ  
其命ニ違ハス成長ニ及ニテ淳朴ニテ言寡ク藩政且同社  
中ニ於テモ其闕遺アル時ハ必ズ直言ス知テ無不盡然ハ慊  
慨激烈ニシテ 朝政ヲ可否スル如キハ一切無之ト云々

右ノ通テ死骸馬ト點檢仕候所全自殺ニ相違無之  
聊不審之廉無所座候ニ付死骸ニ埋葬致シ不苦  
旨清之進ニ申聞引取申候

明治三年庚午七月廿七日

島居山巡察



吉田巡察属  
後藤史生

1171303



廣野屋

自慙

閑戸

此の頃此の住居に籍を来りて懐懐と方々を最に苦弱  
於大嫌に於て元尋に古大極に極意を爲す如し其の身は  
由縁に於て有りて有る可致の意に其の心も亦才の以て  
且敬と先の後に至る意に其の心も亦才の以て  
其の心も亦才の以て

庚午七月

東都府

右の頃此の住居に籍を来りて懐懐と方々を最に苦弱  
於大嫌に於て元尋に古大極に極意を爲す如し其の身は  
由縁に於て有りて有る可致の意に其の心も亦才の以て  
且敬と先の後に至る意に其の心も亦才の以て  
其の心も亦才の以て











越前府中本多家三郎福井表へ引取替候に取付  
 朱物改己上士族之属に其上下を卒族之属に改め  
 之者より安否を尋ね且其後東府中へ改取付  
 所々有下女大福井並支配に寄政を請ふ事難地  
 一揆を企てし物に交福井府中を此尾に改号に民政  
 と連り交一揆に法を局を打毀し級負をす死せし  
 被り有福井より作候に主跡を尋ね申候に事  
 四方より打掛りて引取に大勢に打擲候事

服部文庫  
 117







出張不方一延集、要旨難云、事際未也、打付方三人  
五捕、其成り、交信、海傍、其方、出張、而、非、防、也、肆、長、家、記  
を、乱、暴、其、上、故、を、角、主、以、福、井、者、出張、人、致、未、事、成  
已、未、故、多、死、り、り、打、屋、兼、り、り、初、散、主、場、に、居、合、り、後、り  
引、揚、り、旨、本、多、無、り、所以、出張、所、及、法、静、り、り、外、友  
櫃、由、未、也、り、事、深、再、論、井、者、一、急、報、り、旨、言、子、に、海、目、以  
り、振、家、寛、大、り、言、汁、に、難、り、也、証、議、其、中、に、一、條、を、以  
法、壓、り、然、り、武、生、表、り、多、極、操、也、如、明、り、方、に、以、り、り、

一人、其、所、引、拂、り、り、其、成、り、聖、九、日、初、擧、其、讓、り、巨、魁  
并、黨、類、者、致、十、人、五、捕、り、其、成、り、未、也、不、静、之、也、  
り、方、也、

龍子  
七月



古田書局



光

古田書局 丁亥光

古田書局 丁亥光  
古田書局 丁亥光  
古田書局 丁亥光  
古田書局 丁亥光

日

古田書局 丁亥光  
古田書局 丁亥光  
古田書局 丁亥光  
古田書局 丁亥光

日

服部文  
117







赤松本車馬運志 午中日記

一 府事之要新法法要條

一 第一議及之有為而為人之事候士候人此等極事高候  
信守事

一 第二議長の信守及之候事及之候事  
奉守之候其内之人 初命之法て初命

一 第三議長及之候事及之候事及之候事及之候事  
古代租料等事及之候事及之候事

一 第四議長及之候事及之候事

一 第五議長及之候事及之候事  
初命大臣御事及之候事及之候事  
及之候事及之候事及之候事

一 第六議長及之候事及之候事及之候事及之候事

一 第七議長及之候事及之候事及之候事及之候事

一 第八議長及之候事及之候事及之候事及之候事  
及之候事

一 第九議長及之候事及之候事及之候事及之候事  
及之候事

一 第十議長及之候事及之候事及之候事及之候事  
及之候事

一 第十一議長及之候事及之候事及之候事及之候事  
及之候事

一 第十二議長及之候事及之候事及之候事及之候事  
及之候事



三集破世免事申所答三事

庚午  
七月



臣等所答事申所答三事  
一、臣等所答事申所答三事  
二、臣等所答事申所答三事  
三、臣等所答事申所答三事

庚午八月

京都府

臣等所答事申所答三事  
一、臣等所答事申所答三事  
二、臣等所答事申所答三事  
三、臣等所答事申所答三事

庚午八月

京都府

服部文庫  
117



考出<sup>十日</sup>る<sup>○</sup>及<sup>○</sup>氏<sup>○</sup>也<sup>○</sup>。新<sup>○</sup>本<sup>○</sup>裁<sup>○</sup>抄<sup>○</sup>於<sup>○</sup>後<sup>○</sup>言<sup>○</sup>其<sup>○</sup>集<sup>○</sup>也<sup>○</sup>  
 之<sup>○</sup>終<sup>○</sup>之<sup>○</sup>乃<sup>○</sup>著<sup>○</sup>之<sup>○</sup>。後<sup>○</sup>言<sup>○</sup>之<sup>○</sup>。若<sup>○</sup>所<sup>○</sup>之<sup>○</sup>家<sup>○</sup>之<sup>○</sup>本<sup>○</sup>之<sup>○</sup>集<sup>○</sup>也<sup>○</sup>。入<sup>○</sup>也<sup>○</sup>  
 附<sup>○</sup>在<sup>○</sup>之<sup>○</sup>抄<sup>○</sup>也<sup>○</sup>。即<sup>○</sup>言<sup>○</sup>之<sup>○</sup>。其<sup>○</sup>地<sup>○</sup>何<sup>○</sup>處<sup>○</sup>耶<sup>○</sup>。其<sup>○</sup>名<sup>○</sup>也<sup>○</sup>。若<sup>○</sup>重<sup>○</sup>子<sup>○</sup>也<sup>○</sup>  
 其<sup>○</sup>之<sup>○</sup>後<sup>○</sup>言<sup>○</sup>之<sup>○</sup>人<sup>○</sup>也<sup>○</sup>。五<sup>○</sup>平<sup>○</sup>也<sup>○</sup>。其<sup>○</sup>名<sup>○</sup>也<sup>○</sup>。其<sup>○</sup>姓<sup>○</sup>也<sup>○</sup>。其<sup>○</sup>記<sup>○</sup>

寫本長物事

曰 長物事 二二二

何 長物事 二二二

其 長物事 二二二

曰 長物事 二二二

曰 長物事 二二二

右ふふふ

其 長物事 二二二

其 長物事 二二二

其 長物事 二二二





服部文庫  
117

上第廿五番 松林之五門功  
松林之五門功

藝妓

何野屋之同

此より先人水戸藩住者也元禄中同姓大目吉の年  
秋中より風俗法度者用て傳とて今又子細事とて  
年上りて其相父同姓重之師也其川前之修教とて  
雅性思雅探索とて向古法とて其師也其師也  
秋之痛疾とて其師也其師也其師也其師也  
其師也其師也其師也其師也其師也其師也  
其師也其師也其師也其師也其師也其師也







出書

一 右に... 入金生... 改め... 有進生... 其  
 者... 力... 所... 大元... 止... 出...  
 右... 長年... 外生... 出...  
 一 右... 年... 派... 出...  
 一 有進生... 亦... 進... 學費... 出...  
 一 寫... 雖... 一... 月... 金... 十... 出...  
 一 一... 年... 四... 度... 出... 計... 出...  
 但... 課... 書... 積... 代... 出... 元... 十... 出...  
 一 一... 尤... 出... 出... 出...

一 右... 後... 初... 出... 一... 應... 本... 校... 監... 友... 出...  
 一 一... 山... 澤... 長... 病... 等... 出... 成... 出... 出...  
 一 一... 缺... 欠... 相... 成... 出... 一... 出... 進... 出...  
 一 一... 今... 度... 入... 金... 出... 一... 出... 通... 出... 出...

美濃紙監四ツ切

英 佛 獨 乙 欵  
 何 籍 姓 名 何 歲  
 何 籍 何 役 姓 名 印  
 右此度貢進仕候ニ付而者御規則堅為相守可申候也  
 庚午 何月

庚午八月

大學南校





今般藩制別紙之通被

仰出候素ヨリ其綱

領ヲ被掲候儀ニテ節目施設之方ニ至テハ篤ト

御旨意ヲ奉體シ藩ニ其宜ヲ斟酌シ務テ舊弊ヲ

除キ有無實ニ不涉政績相顕候様盡力可致事

康午九月

太政官

藩制

藩分爲三物成拾五萬石以上ヲ大藩トシ五萬石以上ヲ

中ニ藩トシ五萬石未滿ヲ小藩トス

石高ノ早高ヲ不称物成ヲ以テ可称ナリ

但雜税金石八兩立ニテ本石高ニ可結込事

服部文庫  
117

117-968



藩廳

知事

大參事

不過二人

權大參事

有無其便宜ニ從フ

小參事

不過五人

權小參事

有無其便宜ニ從フ小藩ハ之ヲ置カズ

以上常見職員令

大屬

權大屬

少屬

權少屬

史生

以上分課專務スル所アルベシ譬ハ會計軍事刑法  
學校監察ノ類ノ如シ

右官員ノ多寡大中小藩ニ從テ可為適宜事

廳掌

使部

藩高

現米拾萬石

壹萬石

知事家祿



殘 九萬石

但公解諸費常額追テ可被相定候  
得共當分左之通

内 九千石

海陸軍資

但其半ヲ海軍資トシテ官ニ納メ半ヲ  
陸軍資ニ可充事

殘 八萬千石

但公解入費士卒禄ニ充ヘシ尤精々節  
減シ有餘ヲ以テ軍用ニ可蓄置様可  
心掛事

0  
10  
2  
30

一 官禄藩之適宜任スヘキ事

一 切アツテ禄ヲ増シ罪アツテ禄ヲ褫キ及ヒ一切ノ死刑等ハ  
朝裁ヲ請可シ一時ノ賞罷ニ流以下ノ刑ハ収録シテ年  
末ニ可差出事

一 士族卒之外別ニ級アル可ラサル事

一 正權大參事之内一人在京集議院閣院之節即テ  
可為議員事

但半年交代可充公議人稱呼廢止之事

一 公門ノ稱呼ヲ廢シ其事務ノ大小ヨリ參事或  
ハ屬等ニテ用辨ヲ為サシムヘキ事



知事朝集三年一度年々四季ニ分チ滞京三月タル  
ベシキ

但國家重大之事件ヨリ朝集ニ此限ニアラス

歳入歳出年々十月ヨリ九月迄ヲ限リ分男ヲ立別紙  
雛形之通明細書ヲ以テ年末ニ可差出事

但雛形ニ追テ可相達事

従前藩債ニ一藩之石高ニ関スル事存其支消之法ハ  
藩債之総額ニヨリ支消年限之目途ヲ立知事一家  
禄士卒禄其他公解入費等ヨリ分賦シテ可償却  
事

従来藩造之紙幣向後引替濟之目的ヲ可相立  
事

康午九月

一紙

議員

今般藩制被

仰出候付一同歸藩被

仰付候事

但藩制至重之事ニ付本文之通候条ニ前日  
下問度量之儀ニ歸藩之以書面可申上  
事







但雜稅金名小者之ニ本右高ニ結込ハシ

一 藩廳

知事大冬奉不遇二人權大冬奉有冬其便更ニ  
從之少冬奉不遇一人權少冬奉有冬其便  
更ニ從之小冬奉之ヲ置カズ

以上奉見職目令

大層權大層少層權少層史生以上各課考  
務之ルルニハハハハ會計軍事刑法學校

監察之類ノ如シ

右官負ノ冬冬大冬中冬冬ニ位テ其冬冬

總對事

一 雁掌

使部

一 藩高

壁ハ現米拾萬石内壹萬石知事家祿残九萬石  
但公解諸費常額追加被相定ハ得共冬冬在ノ通

内 九千石 海陸軍費

但其半ヲ海軍資上ニ官ニ納メ半ヲ陸軍資ニ充テ

残八萬石

但公解入費上冬冬祿ニ充テ之冬冬節減ニ有餘更ハ軍用ニ  
加テテ祿ヲ増シ罪ヲ死ニ處テ冬冬朝議ヲ

百官祿滿々  
適宜任之  
キ事

祿ヲ半及一切ノ取刑

裁



請フヘシ一時之賞並流以下ノ刑ハ収録シテ毎季

五月可差出奉事

一士類ノ平ニ介別級アル可ク事

一正權大奉事ノ内一人在京集議院開院ノ節

即チ義員先ヘキ事

一但半年交代可致天尤公議人若目廢止事

一公用人ノ稱呼ヲ廢シ其事務ノ大小ヨリ或ハ

屬中ニテ用辨ヲ為シム(過事)

一知事朝集三年一度年々四季ニ分チ滞京三

ヶ月ヲ限トス

但國家重大ノ事件ヨリ朝集ハ此限ニ非

一上歲入歲出事九月迄ヲ限リ分界ヲ立別級雜刑通明細書ヲ以テ年末ニ差出スキ事

一臣前所奉儀ハ一應ノ石高ニ關スル事十分一

一從前藩領ニ屬スル石高ニ關スル事其支納ノ法ハ藩領ノ總額ヨリ支消年限

之目途ヲ立知事家録士卒録其他公解入費ホヨリ分賦シテ可償却事

トス事

今世高割別儀ニ通被仰出テ素ホリ其細領

ヲ被揚儀儀ニテ其目施設ニ方ニテハ事ト

事分言テ奉體ニ滿シ其宜ヲ斟酌シ務テ舊弊



請フヘシ一時之賞並流以下ノ刑ノ収録シテ毎季  
 五月可若出奉事  
 一 士類之平之介別ニ級アル可若<sup>廿</sup>奉事  
 一 正權大老奉事ノ内一人在<sup>五</sup>京集議院開院之節  
 即千義員充ヘキ事  
 但半年交代可致天尤公議人名目廢止<sup>奉事</sup>之奉事  
 公用人ノ稱呼ヲ廢シ其奉事格ノ大小ヲ<sup>奉事</sup>或ハ  
 屬中ニテ用辨ヲ為サシム<sup>奉事</sup>  
 一 知事朝集三年一度年ニ四季ニ分テ滞京三  
 月ヲ限<sup>奉事</sup>ス

010234

但國家重大ノ事件ニテ朝集ハ此限ニ非ス  
 一 歳入歳出明細書ヲ以テ右之奉事五月限奉出ス  
 一 臣之所奉儀ハ一庄ノ石高ニ關スル奉事十分一  
 之家祿ヲ以テ償ヒ其餘分<sup>奉事</sup>解<sup>奉事</sup>リ出ス<sup>奉事</sup>  
 一 臣奉<sup>奉事</sup>所造ノ紙幣向後引替濟之目的可  
 奉<sup>奉事</sup>ス

今相高割別儀ニ被<sup>奉事</sup>仰出テ奉事ヨリ其細領  
 ヲ被<sup>奉事</sup>揚<sup>奉事</sup>儀ニテ節目施設ニ方ニ奉事<sup>奉事</sup>ハ寫ト  
 奉<sup>奉事</sup>旨ヲ奉<sup>奉事</sup>體ニ藩ニ其旨ヲ奉<sup>奉事</sup>勅<sup>奉事</sup>シ務<sup>奉事</sup>テ舊弊

日新...  
 日新...  
 日新...







熟田桑名佐屋路并四日市へ之渡海左之通  
相定条水主之者船賃之外酒代或ハ船玉杯  
ト唱へ乞請候流弊モ有之哉ニ相聞以之外  
之事ニ候以後右様之所業無之様都テ於地  
方ニ取締可致事

一 船賃之儀當九月十五日ヨリ元賃錢之上へ  
六倍五割増都合七倍五割増ニ相定候事

但右七倍五割之内壹倍五割ハ宿助成ニ  
被下候事

一行幸 行啓其余非常出兵等之節ハ別段之  
御所置可有之事

一 並ニ之出船ハ曉六ツ時ヨリ夕七ツ時迄ニ  
可限事

但急用之者ハ限刻ニ不拘出船可致尤夕  
七ツ時ヨリ時<sup>曉</sup>七ツ時<sup>夕</sup>テハ都テ定賃錢ハ  
五割増之事

一 熟田渡海之積リ先觸差出風波之都合ニテ俄  
ニ熟田桑名等ヨリ佐屋路へ相廻リ候節ハ  
佐屋路通行之先觸必差出右刻限ヨリ三時  
ヲ過キ其驛出立可致事

但佐屋廻リ之積リ先觸差出置俄ニ乗船  
致度節佐屋路驛ニ人足不用流不相成様



迅速断觸可差出事  
右之通相定候事

庚午九月

民部省

○ 熱田ヨリ 粟名へ

- 一 錢三百四拾九文
- 一 錢八百四拾九文
- 一 錢二貫百六文
- 一 錢一貫四百四文
- 一 錢一貫五拾一文
- 一 錢八百七拾四文

- 乘合 壹人
- 乘馬一疋口附共
- 長棒駕籠 一挺
- 引戸駕籠 一挺
- 垂駕籠 一挺
- 山駕籠 一挺

- 一 錢三百四拾九文
- 一 錢二貫八百八文
- 一 錢一貫七百五拾三文
- 一 錢一貫五拾一文

- 西撒分持共 一荷
- 大長持 一棹
- 中長持 一棹
- 小長持 一棹

粟名ヨリ 熱田へ

一 前同漸

熱田ヨリ 四日市へ

- 一 錢三百六拾四文
- 一 錢八百七拾二文
- 一 錢二貫二百文
- 一 錢一貫四百六拾四文

- 乘合 一人
- 乘馬一匹口附共
- 長棒駕籠 一挺
- 引戸駕籠 一挺



一 錢一貫百文  
 一 錢九百拾六文  
 一 錢三百六拾四文  
 一 錢二貫九百三拾二文  
 一 錢一貫八百三拾二文  
 一 錢一貫百文  
 一 前同漸  
 一 桑名ヨリ佐屋  
 一 錢百四拾六文  
 一 錢三百八拾四文

四日市ヨリ熱田

無駕籠 一 杖  
 山駕籠 一 杖  
 兩掛分持共 一 荷  
 大長持 一 棹  
 中長持 一 棹  
 小長持 一 棹

桑合 一人  
 桑馬一足口附共

一 錢八百八拾四文  
 一 錢五百八拾八文  
 一 錢四百四拾二文  
 一 錢三百六拾七文  
 一 錢百四拾六文  
 一 錢一貫百八拾八文  
 一 錢七百三拾八文  
 一 錢四百四拾二文  
 一 錢百三拾一文  
 一 錢三百二拾七文

佐屋ヨリ桑名

長棒駕籠 一 杖  
 引中駕籠 一 杖  
 岳駕籠 一 杖  
 山駕籠 一 杖  
 兩掛分持共 一 荷  
 大長持 一 棹  
 中長持 一 棹  
 小長持 一 棹

桑合 一人  
 桑馬一足口附共



一 錢七百九拾文  
 一 錢五百二拾八文  
 一 錢三百九拾三文  
 一 錢三百二拾九文  
 一 錢百三拾一人  
 一 錢一貫五拾六文  
 一 錢六百五拾九文  
 一 錢三百九拾三文

長捧駕籠 一 挾  
 引戸駕籠 一 挾  
 岳駕籠 一 挾  
 山駕籠 一 挾  
 西哉分持共 一 荷  
 大長持 一 棹  
 中長持 一 棹  
 小長持 一 棹

熱田東名通船借切賃  
 一 錢拾六貫四百九拾五文

四拾七人乘  
 五拾石船一艘  
 但水主五人乘



熱田四日市前同新  
 一 錢拾七貫二百五拾二文

四拾人乘  
 四拾石船一艘  
 但水主四人乘

一 錢拾四貫六百六拾四文

四拾人乘  
 四拾石船一艘  
 但水主四人乘

佐屋東名前同新  
 一 錢五貫二百八拾八文

佐屋ヨリ東名へ

四拾人乘  
 四拾石船一艘  
 但水主四人乘



一錢五貫九百拾六文

兼名ヨリ佐屋へ

一錢一貫七百拾九文

佐屋ヨリ兼名へ

拾三人乗

二拾五石船一艘

一錢一貫九百二拾二文

兼名ヨリ佐屋へ

但水主一以乗

但借切船之儀ハ船之大小ニ寄本文ニ準  
ニ貨錢増減可有之事

右之通相定候事

庚午九月

驛通司



大藏少輔伊藤氏建白

臣伏シテ惟ルニ方今南運煥々英敏特達ノ士彬々輩出ニ開化ノ  
進歩授キ平トソ前日之比ニアラズ而テ治國ノ要務亦隨テ増益  
シ忙官劇職或ハ寢食ノ暇ナキニ至ル然是レ維新更始ノ際ニテ  
理固ヨリ然ルヘキナリ臣因テ之惟思ルニ違アラスト雖モ奉テ其  
要ヲ論セ理財會計ノ修整ヲ以テ庶政ノ根抽トス夫レ理財會計  
ハ凡事務ノ奉行ニ関涉ス故ニ其方法施設ノ可否ニ從テ利害  
得喪全国ノ民庶ニ重及ス其緊要タル固ヨリ言テ俟タス抑固  
家ノ興廢ニ方民ノ貧富ニアリ而テ萬民貧富實ニ財政ノ當否ニ  
依ル是豈深ク関セラル得可シヤ方今霸政專擅ノ餘弊猶未夕  
全ク洗除ス就中金銀貨幣ノ位紊乱ニ物價ノ低昂頗ル紛離

服部文庫  
117



ヲ究メ其禍害全国ニ波及シテ民庶生ヲ聊セサレ至ル加之無根ノ  
紙幣ハ千有萬兩天下ニ散在流布シテ又更ニ贋模ノ弊害ヲ生  
ス極疎ノ方策殆ント將ニ尽シトス於是乎  
朝廷更邁

神新ヲ以テ新貨幣鑄造ノ工ヲ興シ又紙幣改正ノ議ヲ決セシ  
其貨位ヲ糾定シテ物價ノ平準ヲ得セシメ其製造ヲ精緻ニシ  
シテ贋模ノ奸偽ヲ遏止スルニ至ラントス是乃チ即今ノ急務ニシ  
テ實ニ國家危安隆替ノ關鍵スルナリ臣無似ト至職ニ此位  
事ス故夙夜匪勉以テ其効ヲ奏シ永ク萬民ノ幸福ヲ保存シテ  
皇德ヲ不朽ニ傳ヘシト是カ臣焦思苦心深ク今日ニ希望スル所也  
然リト至モ才拙ニ事變大ナリ且ニ方法規画ノ如キ独リ紙上ノ理論  
ヲ以テ臆断スヘカラス故ニ或之ヲ書籍ニ考覈シテ其理ヲ推及シ

是ヲ實際ニ徹シテ其効驗ヲ監ニ然後始テ可否得喪ノ理判然タ  
リト言ハシ臣頃日合衆國債償却法及ヒ紙幣條例ホノ書ヲ繕  
閱シテ其方法商使事理適實官民共ニ其權利ヲ保存シテ相  
行ハレ相悖ラサルノ制ヲ察知ス其維持約束實ニ明亮精確ニシテ  
最モ準據タルヲ得ルモノト言フヘシ然ト至モ一班ノ管見ヲ以テ全體  
ヲ妄案ス可カラス故ニ之ヲ實境ニ驗シテ其真理ヲ採擇シテ以  
テ今日ニ用ユル有ニトス冀クハ臣數月ヲ賜ヒ合衆國ニ抵リ凡理  
財ニ關ス諸法則國債紙幣及ヒ為替貿易貨幣鑄造ノ諸件  
ニ至ル迄面視親聽ニ更ニ推考參酌シテ確然不拔ノ制ヲ設立セシ  
メ聊カ隆恩ノ万一ニ報シテ闕明ノ禪補タルヲ得セシメシテ臣悃  
欵ノ至ニ堪ス誠恐頓首



庚午十月廿八

大藏少輔臣伊藤博文

一 閏十月曾

伊藤大藏少輔

御用有之米利堅国江被遣候事

庚午閏十月

太政官

一 平氏 東方之有者下人員調



長松方出千七百之松八人

但男之松方四松之人

女之松方出千七百之松八人

一 同戸敷

松之方四千四百之松七戸

高層有之為七族

此方五之松八人

但男之方上松八人  
女之方四百之松八人



田戸數

三千三百七拾八戸

田家<sup>本</sup>數

壹千七百八拾九人

男九千一百拾四人

内一千二百拾八人<sup>是</sup>女<sup>是</sup>餘<sup>是</sup>は<sup>是</sup>強<sup>是</sup>之<sup>是</sup>也<sup>是</sup>陽<sup>是</sup>農

但 高<sup>可</sup>持<sup>者</sup>

女八千二百三拾八人

内四千八百拾五人<sup>は</sup>女<sup>は</sup>日<sup>以</sup>前<sup>の</sup>農<sup>也</sup>

可<sup>持</sup>者

田家<sup>本</sup>數

〃

田家<sup>本</sup>

年

此方<sup>は</sup>千七百九十四人

但男<sup>は</sup>千七百三十三人

女<sup>は</sup>千七百五十八人

田家<sup>本</sup>數

〃

田家<sup>本</sup>數



七百九拾三人

男之百拾三人

内四人

但女四百一拾三人

内四人

同日者

三拾二人

但男拾七人

女拾五人

高府附儲鐵

但男拾八人

女拾八人

同日數

比拾五人

日少者

拾八人

但男拾七人

女八人

社務人

千四百七拾八人

但男八百七拾八人

同日數

由縣之... 高府附儲鐵



二万二千七百

同百位

四万五千四百

但男四万七千

僧

五千三百二十

但男四千三百

同百位

千六百三拾

同百位

或千七百四拾

但男千七百

凡

以拾五人

様多

千五百四拾

但男五百

同百位

以百之拾

人



凡千八百九拾人  
但男二千三百拾人  
女凡六百七十人

曰戶數

四百五拾七戶

若惣計

人員二千三百七拾七人

但男二千三百七拾七人  
女六百七十人

戶數

四百五拾七戶

慶長五年十月

凡千三百三拾人

竊氏高

由千四百拾人

男

千四百拾人

女

由千三百七拾人

大人

七百八十二人

中人

由百七拾人

小人

由百拾人

比才以下者

五人

三田救音所病民

凡拾五人

元祐五年五月

總合凡千三百三拾人



右即今在蘇氏分如付之  
庚午年十月



